

# 西南学院小学校 学校長メッセージ

## 「学校通信 Wings 2021年1月号」

主は人の一步一步を定め 御旨にかなう道を備えてくださる。

詩編 37 篇 23 節

新年明けましておめでとうございます。年末年始はあいにくのお天気でしたがコロナ禍での正月を皆さまはどのように過ごされたでしょうか。祝いの言葉を使うことが躊躇されるような厳しい状況ではありますが、それでも新しい年を迎えることができたことに感謝します。

ところで福岡市にお住まいの方ならよくご存じだと思いますが、福岡市の南区と中央区の境には東西に長く丘陵地帯が続いています。その最高部は平尾霊園の背後にある標高約 100 メートルの鴻巣山で、頂上付近にはテレビ塔が立ち展望台や遊歩道も整備されています。その昔山頂付近の大きな松にコウノトリが巣をかけていたことからその名がついたという説があるそうですが、自宅に近いこともあってよく遊歩道を散策します。最初にこの山に登ったのは、もう 40 年近く前のことになりましたが、そのころよく登った展望台は、今はもう周りの木々の方が高くなってしまい、隣にできた新しい展望台に役目を譲っています。その鴻巣山ですが、遊歩道を歩くようになってすぐ、奇妙なことに気づきました。多くの木がまるでタコの足のように根元から何本もの幹に分かれているのです。いったいなぜこんな生え方をしているのだろうと不思議に思っていたのですが、何年かして偶然その秘密？を知ることができました。かつてこの山の木は薪や炭として使われていたそうです。特に終戦後は、空襲で焼けた家を再建するための木材や燃料とするために使われ、一時期鴻巣山ははげ山に近い状態になったとのこと。そのようにして切られた木の切り株から生えだしたいくつもの芽(ひこばえ)が、やがて再び大きく育っていき今のような姿になったそうです。今は市民の憩いの場として親しまれている鴻巣山ですが、そこには人々の苦難の記憶が刻まれているのですね。2020 年そして 2021 年という年も、苦難の時として歴史に刻まれることでしょう。しかし、先人たちが苦難の時を乗り越えよりよい時代を築いていったように、私たちも、私たち自身はもちろんのこと次の世代のためにも、今をただ奪われるだけの時にしてしまわないようにしなければなりません。

聖書の言葉にじっと耳を傾け、目に見えないものに意を注ぐとき、決してたやすいことではありませんが、苦難からも学ぶことができると信じます。ともに前を向いて歩んでまいりましょう。どうか今年もよろしく願います。

文責 宮崎 隆一